

序

都市計画の授業という点、土木工学科をはじめとする建設系の諸学科のほかに、建築学科、都市工学科、社会工学科などにもカリキュラムとして組み立てられており、ほかに大学の農学部や社会学部や経済学部のカリキュラムにも都市社会学などとしてカリキュラムが組み立てられていることがある。本書は大学・短大・高専・専門学校における都市計画の教科書として通年の授業を頭に入れて都市計画の全領域をカバーするようにして纏めたものである。

都市計画に関する図書は数多く出版されているが、本書は、都市計画は“環境”を第一に重視しなければならないという見地から纏めたことから、本の名をあえて“環境都市計画”とした。つまり、“まちづくり”は、住むための良い環境をつくるものであり、風景・景色にしても住むための素晴らしい都市景観を求めるものであって、住みよい“まち”とするものであるという観点を基にしている。以上から、“環境”に配慮した“まちづくり”に関する知識を深めることを目的としており、各章の構成もこれらの点を考慮している。

半年の授業の場合には、必要・重要と思われる分野を除いて、適宜に省略して戴きたい。また、逆に教科書として適当な頁数の関係から各専門領域ごとに深く記述することができなかつたので、通年の教科書として用いて戴くときに、講義される教官の専門領域については、ご自分の学識と持ち味を生かした独自の講義内容として戴きたい。

本書を纏めるに当たって、多くの図書文献を参考にさせて戴いた。一部の方にはご挨拶させて戴いたが、巻末に参考文献一覧表として纏めて掲載させて戴き、文章のなかで必要あるときや文献にはりのように参考文献番号を付けて、その出典を明示した。

平成10年6月 著者 しるす